

短歌（投稿順）

雨あがり蟪蛄鎌を振り上げて後ずさりつつ吾を見据える
下田野 新井 節子
お祖母さん供養に冷や汁作る父一口すれば浮かぶ情景
皆野 大澤 貴夫
山里の神社に続く道辺にはアドンともりて妖し秋の夕
国神 藤原マキ子
伝統を継ぐ笠鉦の引き回し秋晴の里を賑やかに行く（上三沢 八幡神社）
三沢 眞下 杏子
久し振りに弟訪れ秋彼岸積もる話に父母等を偲ぶ
下田野 沢 浅見 豊子
腰かがめ落穂を拾う婦人たち苦難を覆う美しき景
皆野 萩原 初恵
珍しき山法師の実の紅色や出先の庭に仲間と愛づる
三沢 新井 民子
夢にだに思はぬ年月歳重ね慶寿の祝に招かる至福
三沢 新井 叶子
しらかみ号津軽に入れば三味線を奏する音色車内に響く
皆野 打木 昭廣
戦後だとはかり思った日の本も最早時勢は戦前となり
皆野 石原 達也
SLに手を振る小供大人達車内の人も手を振り返す
皆野 村田ハツ代
変りゆく季節の中で今を生き命の限りを歩み行きたし
皆野 根岸 詩子
就職の内定成りし孫とランチ保育所送迎懐かし街で
皆野 引間 万亀

俳句 榎本順江 選 投稿数 18 句

秋めくや来し方遙か九十九髪
三沢 新井 叶子
（俳）お元気で九十九歳。秋の気配の中、今までの人生を振り返りさまざまな思いに浸ったことでしょう。今だに働き、学びの姿勢は羨望的ですね。お体に気をつけ良き日々をお過ごしください。投稿を楽しみにしております。※ツクモは、ツグモモ次百の約で、百に満たず九十九の意。百の字に一画足りない「白」の字とし白髪にたとえた（広辞苑より）。二句目、部活が終わり家路に、疲れと空腹で自転車をはがなければ遠い道のりは坂道も多く立ちこぎし進みません。道中虫の音がお供をしてくれて寂しさを紛らわしてくれそうです。家の灯が見えてきたでしょう。三句目、山間の小さな集落。どの家にも高齢のかたがお住まいのよう、敬老のお祝いは皆いつし。話し相手もいて穏やかな集落の様子が浮かびます。
立漕ぎの部活帰りや虫すだく
皆野 島 弘
どの家も敬老の日よ峡十戸
下田野 沢 浅見 豊子
形変え白き武甲や蕎麦の花
三沢 新井 民子
姫飛蝗にふと覗かるる終ひ風呂
皆野 引間 千鶴
レコードに反骨の音聴く夜長かな
皆野 中田 秀夫
草刈りは人手に頼り大根蒔く
三沢 眞下 杏子
水引草守る人あり壺春堂
皆野 櫻井 早苗
枝切りし茄子隆隆と蘇り
国神 鈴木 正文
巢に帰る鴉の喧嘩秋夕焼
下田野 新井 節子
新涼やテレビ出演孫娘の容姿
皆野 根岸 詩子
枯蟪蛄去り行く姿哀しかり
国神 藤原マキ子